

どの紹介がありました。この報告に対して、久保氏からは先進事例を全国に拡げて、支援の質を上げていくことの重要性や、本人を通して、支援者が学び、その学びをまた支援に活かしていく姿勢が必要と話され、そのことから、本人が生産者であるといえるのではないかとの意見がありました。辻氏からは、QOLや(暮らし)全体を守ること、この人の暮らしを作るといふ視点の示唆がありました。また、強度行動障がい、二次障がいであると考えており、そのためにも早期療育が必要との見解が示されました。大原氏からは、エビデンスに基づくアセスメントによるケアの重要性についての指摘がありました。

5つ目のテーマは、『糸賀一雄思想』についてでした。辻氏より有名な、「この子らを世の光に」の他、「障がいのある人と私たちは根が一つ」「福祉の思想は行動的な実践の中で常に吟味され育つ」「自覚者が責任者」「ひとりもれなく」等、糸賀氏が語られた言葉の背景や意味の説明をいただき、糸賀氏の思想は、障がい福祉の分野だけに留まらない普遍的な思想であり、そのことが地域共生社会につながると話されました。

最後のテーマは、『共生社会に向かうこれから』についてでした。冒頭、野澤氏より「知らない人は理解できない。知っているからこそ理解できる」という視点が示された後、シンポジストの4氏からそれぞれ糸賀思想についての感想と本日のまとめが話されました。松上氏からは「共にある関係がまずあること」が重要であると示され、大原氏からは「見える化・可視化が重要なこと、整地して、居心地の良い社会をいかにつくるかを目指したい」との意見、久保氏からは「障がいがある人も生産者であること、また、そのことを関係者として発信し、啓発・理解につなげていくこと、発達・下降線の道筋は同じ＝根っこは同じであること」とまとめがあり、辻氏からは「知っていただくこと、年季を変えて社会を変えていくことを目指したい」と発言がありました。

2時間弱という非常に短い時間でのプログラムでしたが、多彩な内容で、シンポジストの発言に熱と迫力を感じ、改めて自分に何ができるのか、何をすべきかと問い直すことができたセミナーでした。

大阪市手をつなぐ育成会懇親会を開催しました

12月1日(金)にKKRホテル大阪のオリオンの間で、大阪市手をつなぐ育成会懇親会が66名もの会員の皆さまのご参加があり盛大に開催できました。

懇親会の開会前には、佐野 多由子 様のピアノと中

井 美内子 様の歌によるミニコンサートがありました。時期的にクリスマスにちなんだ楽曲もあり、クリスマスディナーショーの様相でした。

その後の懇親会では、一般社団法人大阪市身体障害者団体協議会の会長であり、当法人評議員である手嶋勇一様のご乾杯のご発声でスタートしました。会員の皆さんも昔の話や近況の話で楽しそうな一時を過ごされていました。



事業所職員向け研修会を開催しました

12月8日(金)に大阪府教育会館(たかつガーデン)で事業所協議会の主催により、事業所職員向け研修会が開催されました。

今年度は、就労継続支援B型 はばたく で施設長をされている福井 武巳 氏より「事業所として支援者として大事にしていること」と題して講演がありました。

講演の中では、事業所の置かれていた時代背景や福祉制度の変遷と法人格取得時に時代の流れに翻弄された話があり、また、取り巻く福祉制度下にあった職員の立場や当時のモチベーションについての話もありました。さらには、福井氏に関わってきた利用者さんのご家族の状況が変わっていく中、利用者さんご本人が状況を受け入れながら変化していく様子のお話もありました。



今回の研修会により、若い職員にとっては、事業所の置かれてきた歴史を知るとともに、事業所に対するご家族の想いや、模範となる先輩から話を聞くことにより、目指すべきスタッフ像がイメージされたのではないかと思います。